

〔目的〕食生活の多様化に伴って外食、加工食品および調理済み食品などの普及が著しい。食物の質や量の変化は身体状況に影響を及ぼし、成人病発症の一因となっていることが報告されている。食生活および生活環境の地域特性を知ることは疾病構造解析の上で重要である。今回は一連の研究の一つとして脂質摂取状況と血清脂質の関連について検討した。

〔方法〕①対象：岩手県北部の農山村地域4町村（A町、I町、K村、Y村）の40～70歳代の男性87名、女性194名 ②調査期間：平成2年12月～3年3月 ③食物調査：記述および面接法、調査期間3日間 ④身体状況調査：身体計測、血圧測定 ⑤血液検査：早朝空腹時に採血、血清脂質（TC、HDL-C、TG）の測定には酵素法を用いた。

〔結果〕①対象者の平均年齢は男性 61.0 ± 8.4 、女性 58.1 ± 8.1 であった。BMI指数から肥満（男性26以上、女性25以上）と判定される者は男性21%、女性25%であった。高血圧罹患者の比率は男性20%、女性21%であった。②脂質摂取量が低い値（充足率69～89%）を示し、特に油脂類の摂取量（5～7g）が著しく低値を示した。コレステロール摂取量はA町 290 ± 118 mg、I町 234 ± 121 mg、K町 243 ± 121 mg、Y町 213 ± 91 mgであった。脂質摂取量が低値にもかかわらずコレステロール摂取量は比較的高値を示した。食塩摂取量は平均12～13gで地域間の差はなかった。③血清TCが 220 mg/dl以上の者は4地域平均で男性26%、女性42%で、女性で高率を示した。男性ではA町が35%と他の地域より高率であった。TGが 150 mg/dl以上の者は男性20%、女性10%で地域間の差が認められなかった。HDL-Cが 40 mg/dl以下の者は男性21%、女性8%で、女性で低率を示した。脂肪酸については目下検討中である。